

子ども薬剤師体験セミナー



◆ 団体名 : 横浜薬科大学

◆ プログラム実施の目的

小学4～6年生を対象に、本物の器具を使用した調剤体験及び模擬患者に対する服薬指導体験を通して薬剤師の仕事の一端を知ること、将来の職業選択の一助（候補）としてもらう。

◆ 実施日時 : 令和4年8月18日(木) 9:30～16:00

◆ 実施会場 : 横浜薬科大学内 薬剤学実習室・模擬薬局

◆ 参加児童数 / 保護者・未就学児など同伴者数 : 29名 / 42名

◆ プログラムの内容

① 「体の情報をもとに漢方茶を作る」

② 「処方箋を確認して水剤を作る」

③ 「錠剤の調剤と服薬指導体験」

◆ 当日の様子



◆ 錠剤の調剤と服薬指導体験

処方箋を確認して薬の一包化や薬を入れる薬袋作成体験のあと、模擬薬局で保護者の方々に対して薬剤師が行う服薬指導をしています。



◆ 処方箋を確認して水剤を作る

メートグラスを使って計量したシロップを投薬瓶に入れたり、スパーテル(さじ)や電子天秤を使って量った散剤を投薬ビンに入れ、さらに精製水を加えて水剤を作っています。



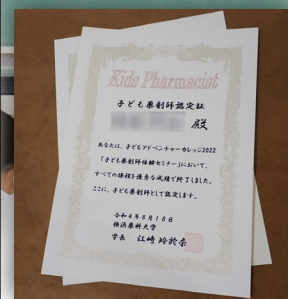
◆ 体の情報をもとに漢方茶を作る

付添者(保護者)から体の情報を聴き取り、それを基に紫蘇、陳皮などの生薬を使用して体質に合った漢方茶(健康茶)を作っています。



◆ 子ども薬剤師認定証授与式

全プログラム終了後、参加者一人一人に「子ども薬剤師認定証」が授与されました。



◆ 振り返り会

※ 学生コーディネーターのインタビュー
参加児童アンケートからの抜粋

◆ おもしろかったところ、良かったところは、ありましたか？

✓ 大学生や先生が優しく、分かりやすく薬について教えてくれたので楽しかったです。今日の体験を通して『薬剤師になりたい!』と思いました。

✓ 作ったものをそのまま持って帰ることができることや、自分でお母さんにアンケートを取って漢方茶の材料を入れたりするところ。

✓ 錠剤を作る時に量を量るのは難しかったけど、自分の想像より上手に出来て良かった。もう一回、いや何百回もやりたい。

✓ 私の質問に1回1回、きちんと答えを返してくれたのでとても良かったです。

✓ メモリを見るときは目線の高さに合わせるといのが勉強になった。

✓ 処方箋に従って薬を作るのが楽しかった。

✓ 本物の薬剤師になった気分でした。



◆ 良くなかったところは、ありましたか？

✓ 待ち時間。

✓ 最後の賞状のところが恥ずかしかった。

✓ 全部が楽しすぎたのでないです。つまり、完ぺきな大学です。



◆ プログラムを終えての感想

◆ 学生コーディネーター（2名）の感想

事前打合せで横浜薬科大学の皆さんが当日の動きや各ブースでの活動内容を詳しく教えてくださり、参加者の誘導等配慮すべきところが理解できたので、安心して当日に臨めました。今回は私自身、子どもたちと関わり、取り組みの様子を知ることでアプローチ方法を模索でき、今後教育に関わる勉強を続ける上で貴重な経験となりました。

一方で、大学側のアンケート用紙の存在を知らずに、私たちが紙を用意したり、主催側への報告書に学生コーディネーターの記載箇所がある旨を認識していなかった等、情報共有に不備がありました。今後は関係者間でしっかり情報の共有をしていただければと思います。

横浜薬科大学の学生さんの学ぶ姿勢や教職員の熱い思い、専門的知識など、こちら学ぶことが多く、また子どもたちが安心、集中して学ぶことが出来る場所や環境を用意する事の大切さを改めて学びました。学習機会を提供する側になっても、学ぶ姿勢を忘れないようにしたいです。

一方、せっかく振り返り会をしたので、そこで感じた事を紙に書かせ持ち帰らせる用意があれば良かったかもしれません。運営では、大学側が用意した参加児童アンケートの存在や修了証のQRコードの存在、企業・団体側が提出する報告書があることを私たちも事前に把握出来ていれば、さらに協力が出来たのではないかと感じました。



◆ 実施団体（横浜薬科大学）の感想

参加者の子供たちのアンケートより、特に漢方調剤が好評を得ました。これは本物の生薬（食品）を実際に触ったり香りを嗅いだりした体験が奏功したと思われます。今回のプログラムでは、漢方に関する体験は生薬で使われる同様の食品を用いる一方で、錠剤や水剤に関する体験は、普段から口にするお菓子などでの代用でした。このことから、今後も可能な限り実物やそれに近い材料を用いて、実態に即した、よりリアルな体験学習を企画したいと思います。

一方、大学側で用意していた参加者アンケートについては学生コーディネーターさんと情報の共有が出来ておらず、やや混乱を招いてしまいました。今後、同様の機会を得た際は、しっかりと認識の統一を図り、円滑でより実りの多いものにしていきたいと考えます。